

酒田市長 丸山 至 殿  
酒田市議会議長 田中 廣 殿

平成31年度

酒田商工会議所重要事業要望書



酒田商工会議所

酒田市におかれては、日頃、地域商工業の振興と経済・社会の発展に向けてご尽力をいただくとともに、酒田商工会議所の事業活動に格別なご理解とご協力を賜わり心から感謝を申し上げます。

酒田商工会議所は、酒田市をはじめ関係機関のご指導と先人の叡智と努力によりまして、昨年度は、創立120周年記念式典をはじめさまざまな記念事業などを開催させていただきました。今年度は、今まで以上に「地域総合経済団体」として、中小企業の振興と経営力向上に取り組むとともに、社会基盤整備をはじめ、街づくりなどの事業にも積極的に取り組んでおります。

本市の状況としては、酒田港のコンテナ貨物取扱量は4年連続で過去最高を更新し、酒田港北港地区古湊ふ頭においては、内外の大型クルーズ船の複数の寄港、庄内空港では、開港28年目で早くも累計搭乗者数が1000万人を達成するなど大きな躍進が期待されるところであります。

酒田市では、人口減少・少子高齢化社会が抱える様々な課題を解決するために、平成30年3月には、10年後の目指す「まち」の姿を描いた「酒田市総合計画」が策定され、その実現に向けて、果敢にチャレンジできる産業交流の盛んな港（湊）まちを目指すことをまちの姿としています。

酒田商工会議所では、このような流れを受けとめ、地域総合経済団体として、地域振興に必要なことは何かを真剣に検討いたしました。会議所会員の主要な業種毎に構成された8つの部会と、会頭の諮問に応じる4つの委員会での検討結果を踏まえ、常議員会で審議を行い「平成31年度要望」としてまとめました。

いずれも重要かつ切実な案件であり、当所においても、地域産業の活性化を図るために、平成31年度の事業への組み入れ、酒田市をはじめ関係機関と連携を図りながら、商工業の元気な酒田の実現に大きな役割を担っていく所存であります。

当市のさらなる飛躍のために、平成31年度の予算編成に際しましては、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年9月26日

酒田商工会議所 会頭 弦 巻 伸

# 【 平成31年度酒田市に対する要望事項 】

## 【重点項目】

### 《交通基盤関係》

- ◎ 地域高規格道路新庄酒田道路・石巻新庄道路の早期実現について . . . . . 1
- ◎ 庄内空港の運航拡充について . . . . . 2

### 《港湾・貿易関係》

- ◎ 酒田港国際ターミナルの整備促進と港湾機能強化について . . . . . 3

### 《都市基盤関係》

- ◎ 第一種市街地再開発事業への支援について . . . . . 5

### 《商工業・地域雇用関係》

- ◎ 緊急雇用確保対策と地元就職の取り組みについて . . . . . 6

### 《観光関係》

- ◎ 観光振興と観光戦略の推進について . . . . . 7
- ◎ 山居倉庫周辺等整備事業の推進について . . . . . 9

## 【要望項目】

### ◎交通基盤関係

- 1 地域高規格道路新庄酒田道路・石巻新庄道路の早期実現について・・・10
- 2 庄内空港の運航拡充について・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 3 鉄道の在来線の安全・安定運行などの確保について・・・・・・・・11
- 4 道路施設等の老朽化対策の促進について・・・・・・・・・・・・12
- 5 日本海沿岸東北自動車道県境区間の整備促進について・・・・・・・・12
- 6 国道の整備促進について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

### ◎河川整備関係

- 7 河川等の整備促進について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

### ◎港湾・貿易関係

- 8 酒田港国際ターミナルの整備促進と港湾機能強化について・・・・13
- 9 港湾関連用地としての旧酒田工業高校・旧酒田北高校跡地利用  
について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

### ◎都市基盤関係

- 10 第一種市街地再開発事業への支援について・・・・・・・・・・・・15

### ◎商工業・地域雇用関係

- 11 緊急雇用確保対策と地元就職の取り組みについて・・・・・・・・15
- 12 地域の将来を担う人材育成とU I Jターンなどの雇用対策について・・  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 13 市発注事業の平準化及び早期発注、工期の弾力的設定、地元優先発注に  
ついて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
- 14 空き家対策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
- 15 消費の喚起を促す商業振興対策事業の取り組みについて・・・・18
- 16 新たな中小企業金融対策支援について・・・・・・・・・・・・18
- 17 木造住宅耐震改修支援事業等リフォーム関連事業の継続について・・・18
- 18 中心商店街等の防火地域における改装支援について・・・・・・・・18

◎観光関係

- 19 観光振興と観光戦略の推進について . . . . . 19
- 20 山居倉庫周辺等整備事業の推進について . . . . . 21
- 21 将来に向けた道の駅の調査・研究について . . . . . 21
- 22 エネルギーミックスを活かしたビジターセンターの設置について . . . . . 21

◎水産関係

- 23 水産加工関連の誘致及び加工品開発支援について . . . . . 22

◎健康福祉関係

- 24 子育て支援について . . . . . 22
- 25 食育などの見える化と支援体制の整備について . . . . . 23

◎環境関係

- 26 送電網の整備拡充について . . . . . 23

◎教育関係

- 27 高校再編計画（中高一貫校を含む。）の対応について . . . . . 24
- 28 学習環境向上のための環境整備の推進について . . . . . 24

# 【 重点項目 】

## 《交通基盤関係》

### 1 地域高規格道路新庄酒田道路・石巻新庄道路の早期実現について

地域高規格道路新庄酒田道路・石巻新庄道路は、日本海側と太平洋側を結ぶ物流の大動脈が形成され、広域的交流の進展や文化・観光分野においても地域社会への貢献度は高まるほか、災害時には日本海側と太平洋側の物流基幹道路となります。現在、新庄酒田間の余目酒田道路については、酒田市新堀～東町間に続き、庄内町廻館～酒田市新堀間が平成30年3月に供用開始、そして7月には新庄古口道路の戸沢村津谷～古口間が開通するなど整備が進められています。一方、戸沢村高屋～庄内町廻館間ははまだ未事業区間・計画路線であることから、酒田市には、平成31年度中に事業化・整備区間へ格上げされるように沿線自治体などと連携した積極的な要望活動をお願いします。

また、当所が行う、本件実現に向けた機運醸成のための新たな取り組みへの支援をお願いします。つきましては、次の事項を要望します。

#### 記

#### (1) 新庄酒田道路の整備促進

##### ①事業中区間の整備促進

- ・高屋道路（戸沢村古口地内）

##### ②未事業化区間の早期事業化

- ・戸沢村古口～戸沢村草薙（高屋道路）の前後区間
- ・戸沢村草薙～庄内町狩川（戸沢立川道路）の早期事業化に向けた計画段階評価の実施
- ・庄内町狩川～庄内町廻館

#### (2) 石巻新庄道路の早期整備着手

#### (3) 酒田市独自事業の実施と当所が行う機運醸成のための新たな取り組みへの支援



## 2 庄内空港の運航拡充について

庄内空港は、本地域と首都圏はじめ全国、海外とを結ぶ交流・物産拠点として、地域の産業の発展に大きな役割を果たしています。平成29年度の年間搭乗者数は、前年比3%増の約39万人となったほか、8月28日には、総搭乗者数は1,000万人に達成しています。

平成30年の8月16日までの利用実績では、冬季の欠航数が昨年比で大幅に増加した結果、対前年比7,363名の減(▲3.1%)となるなど、現状のままの推移では年間利用者数が39万人を下回る状況にあります。

庄内地方は、冬季に大変厳しい気象条件になることが多いことから、利用客からは、安定運航を見据えた滑走路延長が強く求められています。

庄内空港のさらなる利用者拡大を図るためには、秋田県南地域と新潟北部地域など、広域から利用者呼び込めるような方策と国内外の誘客対策が必要です。

庄内一羽田の東京便は現在、全日空が1日4往復運航していますが、搭乗率が高く、曜日や便によってはチケットが取りにくいなどの状況にあります。増便やダイヤ改善、運賃の引き下げなどの実現のためには、ビジネス需要だけでなく国内外からの旅行商品の造成、修学旅行などの団体客の誘致であり、そのためには、LCC(格安航空会社)の実現と早期就航が必要と考えます。

庄内空港の運航拡充に向けては、幅広い年齢層の利用とビジネス層向けの便利なサービス、国内外との行き来しやすい環境整備があることから、下記事項について要望します。

### 記

- (1) LCC(格安航空会社)の早期実現に向けた関係機関等への働きかけについて
- (2) LCC運行に向けた山形県への支援の働きかけについて
- (3) 滑走路延長(2,500m化)に向けた国庫補助事業の採択要件の拡充と国、県などへの促進に向けた働きかけについて
- (4) 安定・安全確保に向けた管制塔無人化の見直しについて
- (5) 利用促進に向けた山形空港並みの支援への山形県に対する働きかけについて
- (6) 利用促進に向けた新たな取り組みについて



## 《港湾・貿易関係》

### 8 酒田港国際ターミナルの整備促進と港湾機能強化について

山形県唯一の重要港湾である酒田港は、北東アジアを含め環日本海の経済交流が着実に進展する中で、日本海沿岸地域はもとより太平洋側との連携の基幹港として極めて重要な役割を担っています。酒田港については、関係機関のご努力によりまして、コンテナ船2隻同時着岸に向けた高砂2号岸壁の延伸整備、背後のふ頭用地の造成、1号コンテナクレーンの大型化、臨港道路の拡張などを進めて頂いており、コンテナ貨物の取扱量では、平成26年から4年連続で過去最高を記録しています。

「港湾施設整備」では、今後も多様化する危険物等貨物の増加に対応するために、悪天候時でも安全に危険物を保管できる港湾施設の増設が必要です。酒田港の優位性を高めるためにも、港湾利用企業の保管コストの低減が必要であり、引き続き港湾施設整備の促進をお願いします。

「周辺道路対策」として、新たなバイオマス発電の立地などにより、港湾道路では大型ダンプの往来も多く、一般通行車両（観光客、釣り客など）や酒田港を中心にトライアスロンなどの大会での参加者との交通安全上を含め、交差点でのカーブミラーの必要な箇所、道路上の白線の補修箇所も見受けられます。

「岸壁整備・越波対策」として、バイオマス発電所の燃料や風力発電の部材等の荷さばき、また大型クルーズ船も接岸する古湊ふ頭の船混みによる滞船が懸念され、現在、大型クルーズ船が接岸する第1号・第2号岸壁の防舷材と第3号岸壁の防舷材に段差が生じており、第2号岸壁と第3号岸壁にまたがっての接岸は困難となっています。古湊ふ頭に大型船の同時接岸を可能とするために、第1号・第2号岸壁同様の防舷材を第3号岸壁に設置すると共に、古湊木材荷さばき地を岸壁に整備することがあります。また、冬季における防波堤を越える越波を防ぎ、船舶が安全に接岸できるようにするためにも、防波堤のかさ上げが必要と考えます。

「輸出拡大」としては、農産物の輸出拡大が考えられるが、そのためには植物防疫検査の充実が必要であります。特に、中国向けの米の輸出については、東北の日本海側に位置する酒田港は対岸貿易における優位な位置にあります。中国向けの米の輸出が酒田港周辺で全て整えば、輸出コスト面から東北全体での米の基幹港となることから、米を含めた農林水産物の輸出に向けた施設整備が必要と考えます。平成28年11月より酒田出張所の無人化、今年3月には酒田出張所が廃止され、新潟支所からの出張検査となっている状況にあります。国際貿易港酒田港として税関、出入国管理、検疫、いわゆるC I Qの水際機能維持、円滑な検査体制構築のため、横浜植物防疫所新潟支所酒田出張所の開庁、植物防疫官常駐体制が必要と考えます。

つきましては、酒田港の機能強化について、下記事項を要望します。

#### 記

- (1) 危険物保管上屋の設置について
- (2) 酒田北港周辺道路の安全確保対策について
- (3) 港内静穏度を高めるための防波堤の整備促進について
- (4) 古湊ふ頭の岸壁延伸と大型船の同時接岸を可能とするための防舷材拡充並びにDW（載貨重量トン数）制限の緩和について

- (5) 酒田港国際ターミナルの荷役機械の公的導入への国、県への働き掛けについて
- (6) 庄内米の輸出促進に向けた国際的な取扱い認定を受けた精米設備や燻蒸倉庫の増設について
- (7) 横浜植物防疫所新潟支所酒田出張所の復活について
- (8) 産業界の意見を踏まえた港湾計画の改訂について



## 《都市基盤関係》

### 10 第一種市街地再開発事業への支援について

酒田産業会館の改築は、酒田市中心市街地活性化基本計画に新産業会館整備事業として盛り込まれており、コンパクトシティ構想の一翼を担う賑わい創出の拠点、情報発信及び経済活動の拠点としての整備を考えています。新産業会館の整備事業は、単なる産業会館の建て替え事業ではなく、活性化拠点に求められている機能の一端を担うという視点での施設整備について、今年度は実施設計の発注をはじめ、平成33年春のオープンに向けて鋭意取り組んでいます。

酒田駅前地区の環境整備については、酒田コミュニケーションポート（仮称）を含めた実施計画が提示されるなど、駅前の賑わい創出に資する施設の整備が着々と進められています。酒田駅前地区の整備は市民の期待も大きく、今後の酒田のまちづくりの顔であります。駅前再開発事業については、計画の進捗状況を含めた市民への情報公開に努め、将来的に市の玄関口としてふさわしい開発に取り組んでいただきますようお願いいたします。

つきましては、市街地再開発事業に対して、次の事項について要望します。

#### 記

- (1) 酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業への予算確保について
- (2) 酒田駅前地区第一種市街地再開発事業の推進について



## 《商工業・地域雇用関係》

### 1 1 緊急雇用確保対策と地元就職の取り組みについて

人口減少による労働力不足と高校生の地元就職率が65%前後と低いこともあり、企業では地元の人を採用したいが、人材が集まらない状況が続き、生産量の抑制や新規受注ができないなど、廃業や人手不足倒産が避けられない状況にきています。

雇用関係では、関連機関・団体間が持っている雇用に関する情報が共有されていない場合があります。いつでも、どこの窓口でも一元化した同じ情報が地元就職を希望する生徒、学生に提供できるシステムが必要です。

地元で即戦力となるためには、地元就職を希望する者に対して、独自の資格・免許取得助成と各高等学校に対して、幅広い企業情報の提供が重要と考えます。

また、就職相談会とは別に、中学・高校生及び保護者を対象とした企業情報説明会、企業訪問などについて、関係機関、団体が連携した取り組みがあります。

今年度設立された酒田市産業振興まちづくりセンターは、地元企業、農林水産業、個人などのニーズとシーズをつなぎ、商品開発・販路開拓などにより、産業振興や農商工連携の一体的窓口になっています。

このようなことを踏まえ、早急な地元就職の向上と雇用確保の取り組みとして、下記事項について強く要望します。

#### 記

- (1) 雇用関連機関・団体間の情報の一元化と連携した取り組みについて
- (2) 酒田市産業振興まちづくりセンターと同様な雇用センター（仮称）の創設について
- (3) 地元就職希望者に対する資格・免許取得への助成について
- (4) 中学生・高校生及び保護者を対象とした企業説明会の実施について



## 《観光関係》

### 19 観光振興と観光戦略の推進について

平成29年に「酒田交流おもてなし市民会議」が設立されたことで、外航クルーズ船寄港の受入対応や各種イベントのおもてなしをはじめ、市民と連携した取り組みは、各方面から大変高く評価されています。今後は、酒田の観光振興をさらに戦略的に進めるため、市民会議と平行して、酒田市と観光関係団体等が定期的に情報・意見交換を行う体制が必要です。その定期情報交換を通して、情報共有、意思統一、役割分担がより明確化になると考えます。

「新潟県・庄内エリア デスティネーションキャンペーン」（以下、「DC」という。）が来年10～12月に行われます。JRと地元が一体となった取組を展開することで、観光客の増加、情報発信による経済効果が見込めるため、酒田市としてもDCへの強力な支援をお願いします。例えば、DC期間中に街中で食に関するイベントを多数行うなどして、駅から街中へ、街中から観光施設へと誘客する方法や観光施設や飲食店を回遊するなどの仕掛けづくりと鶴岡市と連携した庄内一体となった取組などがあります。

外航クルーズ船の寄港は乗船客による経済効果はもちろんですが、県内外から多くの見学者が訪れることで、飲食業をはじめ様々な業種への波及・相乗効果があります。つきましては、寄港する外航船への歓迎の意を表すとともに、県内の近郊市町村へ外航クルーズ船寄港を周知することで、より多くの県民が酒田に訪れることに繋がりますので、PRポスター等の作成・配布などの広報強化をお願いします。

酒田港における内・外航クルーズ船の受け入れやインバウンド対応はもちろんのこと、国内外の観光客に向けたサービスとして無料Wi-Fiの環境整備は必須な状況です。無料Wi-Fi（例えば、Free Wi-Fi yamagata）の仕組みが整備されつつありますが、中心市街地、公共施設、観光スポット・施設など広域的で途切れなく利用できるような面的整備をお願いします。そのためには、実態検証を含めた現状把握・調査や問題点の整理、商店街等との連携などを図りながら、平成32年度までの計画的な推進をお願いします。

市においても、庄内空港などを利用した国内外の観光誘客対策の強化が図られていますが、インバウンド観光の訪日外国人が増加する中、「おしん」に特化した観光施設等のニーズが高まっております。特に東南アジア、アフリカでも人気があり、現在においても「おしん」の知名度は高く、酒田に来る理由・動機付けに繋がっています。「おしん」のビジュアル化など、外国人観光客にとって観光名所となり得るようなコンテンツ化と施設整備が必要と考えます。具体的には、山居倉庫や旧燈屋、山王くらぶを活用した事業展開の検討をお願いします。

海洋性スポーツ普及・推進について、平田B&G海洋センターカヌー場にて取り組みがなされておりますが、カヤック体験を観光資源として捉え、気軽に観光客等が体験出来るような仕組みを構築することで、更なる観光振興が図れます。中心市街地内には山居倉庫脇を流れる新井田川があります。新井田川で体験観光としてのカヤック利用があり、乗降場所等も含め、山居倉庫を拠点とするのが効果的と考えます。将来的には、山居倉庫整備事業の中に取り入れも含めて検討をお願いします。

宿泊業や飲食業を営む事業者が、市内で開催されるイベントやスポーツ大会などの情報を事前に知ることができれば、計画性を持ったおもてなしが可能になります。酒田市のHPにはイベント一覧表が設けられていますが、市が関連するイベントが中心で、いろいろな団体の大きなフォーラム

などの情報量が少ないこととその内容が分かりづらいつ感じます。また、インターネットを利用できない事業者も多くいます。直接顧客と接する現場の事業者に情報が提供される「酒田らしい」優しい仕組みづくりをお願いします。

本市には、北前文化に代表するような湊町、商人文化など観光客の誘客となる多くの資源が市内全域にあります。「酒田ラーメン」など、ぜひ食べて頂きたい食事などは、「酒田市ラーメン100店」等のブランドアップに向けた取り組みや「酒田に来たらぜひ立ち寄って欲しい!」、まちの自慢を地元の人が紹介する、「酒田市の文化遺産〇〇選」などの制度創設をお願いします。そのためには、市民がいつでも文化遺産などを自慢できる研修会の開催など、市民総参加型観光案内プロジェクトが必要と考えます。その他、日和山公園及びその周辺には多くの観光資源が集積していることから、点と点を結んで周遊コースを設定し、それを案内する観光案内サインの設置をお願いします。

本市には、観光産業として特徴ある工場や4種類のエネルギーミックスによる発電施設があります。交流人口の拡大を図る視点からも産業を活かした産業観光コースの充実と受入体制が重要となります。

「ぶら探酒田」は、無料で参加できるまち歩きで、当会議所が中心となり平成27年度から取り組み、毎回100名を超える方々が参加しています。継続には受入窓口の整備、観光ガイドの養成など解決すべき課題は多くありますが、将来的には持続可能な運営体制を構築することが重要です。つきましては、観光振興と観光戦略の推進について、次の事項について要望します。

#### 記

- (1) 観光推進のための観光関係団体との新たな体制づくりについて
- (2) 新潟・庄内エリア デスティネーションキャンペーンへの取組強化について
- (3) 外航クルーズ船寄港に係るPRの強化について
- (4) 酒田Wi-Fiタウン化に向けた現状把握、市による計画的整備と民間事業者への支援について
- (5) 酒田への国内外の観光誘客対策について
- (6) 山居倉庫「酒田夢の倶楽」の物販売り場面積の拡充について
- (7) 「おしん」の有効活用と計画的施設整備について
- (8) 新井田川における体験型観光としてのカヤック施設の整備について
- (9) イベントやスポーツ大会の関係事業者への情報提供について
- (10) 酒田のラーメンなどのブランドアップの推進について
- (11) 酒田の「文化遺産〇〇百選」などの制度創設と市民参加型プロジェクトの取り組みについて
- (12) 日和山周辺の周遊コースの設定と観光案内サインの充実について
- (13) 産業観光への支援について
- (14) 「ぶら探酒田」の持続的運営体制の早期構築について



## 20 山居倉庫周辺等整備事業の推進について

酒田市での「道の駅」については、旧商業高校の跡地や消防署跡地も含めた山居倉庫周辺等整備の計画として、従来の形態にとらわれない「まちの駅」の設置を検討していると認識しています。

今後、「まちの駅」の設置を含め、山居倉庫周辺等整備事業を推進するにあたり、産業界の意見も取り入れ、合意形成された事業となるよう、調査・企画段階から産業界が参画できるような仕組みづくりが必要と考えます。

酒田市にとって貴重な財産である旧県立酒田商業高等学校跡地については、ジオパークランド（見どころを動画で紹介・インスタ映えするセット）、ラーメンビレッジ、酒パビリオン（全国のお酒と市内のお酒が飲めるブース 日本一の品揃え）、ジオ食堂（ジオパーク内で採れた農林水産物を使った自然の恵みレストラン）などの複合観光施設が考えられます。その結果として、山居倉庫とのシナジー効果が期待できます。

山居倉庫周辺等整備事業については、次の事項について要望します。

### 記

- (1) まちの駅の検討や山居倉庫周辺等整備事業については、調査・企画段階からの産業界の参画できる仕組みづくりについて
- (2) 旧酒田商業高校の跡地利活用としての複合観光施設による有効活用について



## 【 全要望項目補足説明書 】

### ◎交通基盤関係

#### 1 地域高規格道路新庄酒田道路・石巻新庄道路の早期実現について

地域高規格道路新庄酒田道路・石巻新庄道路は、日本海側と太平洋側を結ぶ物流の大動脈が形成され、広域的交流の進展や文化・観光分野においても地域社会への貢献度は高まるほか、災害時には日本海側と太平洋側の物流基幹道路となります。現在、新庄酒田間の余目酒田道路については、酒田市新堀～東町間に続き、庄内町廻館～酒田市新堀間が平成30年3月に供用開始、そして7月には新庄古口道路の戸沢村津谷～古口間が開通するなど整備が進められています。一方、戸沢村高屋～庄内町廻館間ははまだ未事業区間・計画路線であることから、酒田市には、平成31年度中に事業化・整備区間へ格上げされるように沿線自治体などと連携した積極的な要望活動をお願いします。

また、当所が行う、本件実現に向けた機運醸成のための新たな取り組みへの支援をお願いします。つきましては、次の事項を要望します。

#### 記

##### (1) 新庄酒田道路の整備促進

###### ①事業中区間の整備促進

- ・高屋道路（戸沢村古口地内）

###### ②未事業化区間の早期事業化

- ・戸沢村古口～戸沢村草薙（高屋道路）の前後区間
- ・戸沢村草薙～庄内町狩川（戸沢立川道路）の早期事業化に向けた計画段階評価の実施
- ・庄内町狩川～庄内町廻館

##### (2) 石巻新庄道路の早期整備着手

##### (3) 酒田市独自事業の実施と当所が行う機運醸成のための新たな取り組みへの支援

#### 2 庄内空港の運航拡充について

庄内空港は、本地域と首都圏はじめ全国、海外とを結ぶ交流・物流拠点として、地域の産業の発展に大きな役割を果たしています。平成29年度の年間搭乗者数は、前年比3%増の約39万人となったほか、8月28日には、総搭乗者数1,000万人を達成しています。

平成30年の8月16日までの利用実績では、冬季の欠航数が昨年比で大幅に増加した結果、対前年比7,363名の減（▲3.1%）となるなど、現状のままの推移では年間利用者数が39万人を下回る状況にあります。

庄内地方は、冬季に大変厳しい気象条件になることが多いことから、利用客からは、安定運航を見据えた滑走路延長が強く求められています。

庄内空港のさらなる利用者拡大を図るためには、秋田県南地域と新潟北部地域など、広域から利用者呼び込めるような方策と国内外の誘客対策が必要です。

庄内一羽田の東京便は現在、全日空が1日4往復運航していますが、搭乗率が高く、曜日や便によってはチケットが取りにくいなどの状況にあります。増便やダイヤ改善、運賃の引き下げなどの実現のためには、ビジネス需要だけでなく国内外からの旅行商品の造成、修学旅行などの団体客の誘致であり、そのためには、LCC（格安航空会社）の実現と早期就航が必要と考えます。

庄内空港の運航拡充に向けては、幅広い年齢層の利用とビジネス層向けの便利なサービス、国内外との行き来しやすい環境整備があることから、下記事項について要望します。

#### 記

- (1) LCC（格安航空会社）の早期実現に向けた関係機関等への働きかけについて
- (2) LCC運行に向けた山形県への支援の働きかけについて
- (3) 滑走路延長（2,500m化）に向けた国庫補助事業の採択要件の拡充と国、県などへの促進に向けた働きかけについて
- (4) 安定・安全確保に向けた管制塔無人化の見直しについて
- (5) 利用促進に向けた山形空港並の支援への山形県に対する働きかけについて
- (6) 利用促進に向けた新たな取り組みについて

### 3 鉄道の在来線の安全・安定運行などの確保について

鉄道は、通勤、通学などの日常生活を支える重要な社会基盤であり、観光客やビジネス客などを大量に運ぶ輸送機関です。

近年、羽越本線については、JRによる防風柵の設置、強風警報システムの導入など安全対策が進められているものの、依然として強風による遅延や運休が多くあり、安定運行に課題を抱えたままです。羽越本線は、来年度に本番を迎える新潟県・庄内エリア デスティネーションキャンペーンに欠かせない重要な路線であります。庄内地域の在来線機能の強化が特に遅れていることから安全・安定運行確保についてJRなど関係機関に強く働きかけをお願いします。

陸羽西線につきましても、羽越本線と同様に、豪雨の度に運休が繰り返され、今も古口～清川駅間の運転を見合わせ、新庄～酒田駅間でバス代行輸送を行っています。陸羽西線の酒田駅における利用人数は毎年減少傾向にあり、厳しい状況が続いています。陸羽西線の利用拡大については、当所が主体となり市と自治会連合会との協力の下、平成28年度より「新庄まつり」に参加しています。酒田市においては、陸羽西線の利用拡大のための住民へのPR強化のお願いと安定運行に向けた関係機関への働きかけをお願いします。

山形新幹線の新庄延伸は、交流人口の拡大、最上地域の地域活性化などに大きな役割を果たしてきました。山形新幹線の庄内延伸の実現は極めて厳しい状況になっていると認識していますが、山形新幹線庄内延伸は、内陸と庄内を結ぶことによる県内一体感の醸成、新たな観光ルートづくりなど、経済発展に大きな効果をもたらす、人口減少の抑制も期待されます。

中速鉄道による山形新幹線区間及び羽越本線区間の高速化についても、同様な効果があると考えます。

つきましては、下記事項について要望します。

#### 記

- (1) 羽越本線、陸羽西線の安全・安定運行の確保について
- (2) 陸羽西線の利用促進について
- (3) 山形新幹線庄内延伸への機運醸成の取り組みについて
- (4) 中速鉄道の調査・研究について

## 4 道路施設等の老朽化対策の促進について

酒田市の道路施設維持管理については、平成21年度に点検が実施されて以来、平成23年度の長寿命化計画の策定後、平成24年度より補修工事が開始され、平成26年度からは2順目の点検に着手、平成27年度で全ての橋梁の点検・診断を終え、平成28年度には橋梁長寿命化修繕計画が策定されました。

酒田市が管理しなければならない道路施設、橋梁などの社会インフラ施設は膨大な数に上っています。酒田市では独自のメンテナンスサイクル（点検・診断・措置・記録）を策定し、市民の安全・安心が確保できるように道路施設等の老朽化対策を計画的に実施することをお願いします。

当地域でも橋梁の弱体化、強風による防雪柵の飛散や腐食による道路標識の倒壊等の懸念も予想されますので、早期補修による長寿命化対策の推進と継続的な予算確保が必要と考えます。

つきましては、下記事項について要望します。

#### 記

- (1) 継続的な予算確保について
- (2) 酒田市独自のメンテナンス計画の検討について

## 5 日本海沿岸東北自動車道県境区間の整備促進について

日本海沿岸東北自動車道新潟・秋田両県境区間は、平成25年5月に事業化され、一部工事が着工されております。未完成区間の早期完成に向けて、酒田市からは沿線自治体や関係団体などと連携し、予算確保のための要望活動や建設促進のための取り組みの強化を図っていただくようお願いいたします。

つきましては、県境部分の全線開通に向け、官民一体となった積極的な運動展開に取り組まれますよう下記事項を要望します。

#### 記

- (1) 未完成区間の早期完成に向けた予算の確保について

## 6 国道の整備促進について

国道は、自動車交通に頼らざるを得ない本地域にとっては、企業活動や広域観光などの様々な経

済活動で地域の発展を図る上できわめて重要な社会基盤です。国道7号広野地区4車線化については、三川バイパスまでの残区間での渋滞緩和・交通安全対策の両面から完全4車線化が早急に必要と考えます。未完成区間の早期完成に向けて、酒田市からは沿線の地域住民や関係団体などと連携し、予算確保のための要望活動を行っていただくようお願いいたします。

国道344号の安全で円滑な走行には、安田バイパスの一日も早い完成が必要と考えておりますので、早期整備に向けた継続的な要望活動を含め、下記事項について要望します。

#### 記

- (1) 国道7号広野地区以南の拡幅工事の促進について
- (2) 国道344号の早期整備について

### ◎河川整備関係

#### 7 河川等の整備促進について

酒田市内を流れる河川について、集中豪雨等による災害を未然に防ぐため、計画的な土砂の浚渫や支障木の撤去など河川管理の徹底をお願いします。

人家の上流部にあるため池等について、豪雨等による災害を未然に防ぐため、早急な調査の上、必要な補強などを実施していただくよう要望します。

今年の7月下旬から8月上旬にかけて、最上川渇水の影響を受けて塩水が遡上してきました。その結果、浄水場への取水が停止され、上水道の供給水圧を下げる措置が取られました。同様に、工業用水を利用する企業に対して、供給されている工業用水も塩分濃度上昇により、生産活動に使用できない状態となりました。企業が、安定で安心な工業用水の供給が継続できるよう下記事項について要望します。

#### 記

- (1) 計画的な土砂の浚渫と河川敷の支障木の撤去について
- (2) 集落の上流部にある「ため池」の強度調査と補強工事などの対策の実施について
- (3) 安定で安心な工業用水の供給について

### ◎港湾・貿易関係

#### 8 酒田港国際ターミナルの整備促進と港湾機能強化について

山形県唯一の重要港湾である酒田港は、北東アジアを含め環日本海の経済交流が着実に進展する中で、日本海沿岸地域はもとより太平洋側との連携の基幹港として極めて重要な役割を担っています。酒田港については、関係機関のご努力によりまして、コンテナ船2隻同時着岸に向けた高砂2号岸壁の延伸整備、背後のふ頭用地の造成、1号コンテナクレーンの大型化、臨港道路の拡張などを進めて頂いており、コンテナ貨物の取扱量では、平成26年から4年連続で過去最高を記録しています。

「港湾施設整備」では、今後も多様化する危険物等貨物の増加に対応するために、悪天候時でも

安全に危険物を保管できる港湾施設の増設が必要です。酒田港の優位性を高めるためにも、港湾利用企業の保管コストの低減が必要であり、引き続き港湾施設整備の促進をお願いします。

「周辺道路対策」として、新たなバイオマス発電の立地などにより、港湾道路では大型ダンプの往来も多く、一般通行車両（観光客、釣り客など）や酒田港を中心にトライアスロンなどの大会での参加者との交通安全上を含め、交差点でのカーブミラーの必要な箇所、道路上の白線の補修箇所も見受けられます。

「岸壁整備・越波対策」として、バイオマス発電所の燃料や風力発電の部材等の荷さばき、また大型クルーズ船も接岸する古湊ふ頭の船混みによる滞船が懸念され、現在、大型クルーズ船が接岸する第1号・第2号岸壁の防舷材と第3号岸壁の防舷材に段差が生じており、第2号岸壁と第3号岸壁にまたがった接岸は困難となっています。古湊ふ頭に大型船の同時接岸を可能とするために、第1号・第2号岸壁同様の防舷材を第3号岸壁に設置すると共に、古湊木材荷さばき地を岸壁に整備することがあります。また、冬季における防波堤を越える越波を防ぎ、船舶が安全に接岸できるようにするためにも、防波堤のかさ上げが必要と考えます。

「輸出拡大」としては、農産物の輸出拡大が考えられるが、そのためには植物防疫検査の充実が必要であります。特に、中国向けの米の輸出については、東北の日本海側に位置する酒田港は対岸貿易における優位な位置にあります。中国向けの米の輸出が酒田港周辺で全て整えば、輸出コスト面から東北全体での米の基幹港となることから、米を含めた農林水産物の輸出に向けた施設整備が必要と考えます。平成28年11月より酒田出張所の無人化、今年3月には酒田出張所が廃止され、新潟支所からの出張検査となっている状況にあります。国際貿易港酒田港として税関、出入国管理、検疫、いわゆるC I Qの水際機能維持、円滑な検査体制構築のため、横浜植物防疫所新潟支所酒田出張所の復活、植物防疫官常駐体制が必要と考えます。

つきましては、酒田港の機能強化について、下記事項を要望します。

#### 記

- (1) 危険物保管上屋の設置について
- (2) 酒田北港周辺道路の安全確保対策について
- (3) 港内静穏度を高めるための防波堤の整備促進について
- (4) 古湊ふ頭の岸壁延伸と大型船の同時接岸を可能とするための防舷材拡充並びにDW（載貨重量トン数）制限の緩和について
- (5) 酒田港国際ターミナルの荷役機械の公的導入への国、県への働き掛けについて
- (6) 庄内米の輸出促進に向けた国際的な取扱い認定を受けた精米設備や燻蒸倉庫の増設について
- (7) 横浜植物防疫所新潟支所酒田出張所の復活について
- (8) 産業界の意見を踏まえた港湾計画の改訂について

## 9 港湾関連用地としての旧酒田工業高校・旧酒田北高校跡地利用について

花王株式会社酒田工場の増設後、酒田港湾区域には倉庫を建設する用地がないことから、内陸地域の新規荷主へのポートセールス活動を行う上で、保管施設がないことが課題となり、新規の荷主

を獲得できない状況になっています。

港湾関連用地としての利用を考えた場合は、利便性の面から酒田北港から3キロメートル以内と考えます。旧酒田工業高校・旧酒田北高校跡地は、酒田みなとインター周辺にあり港湾関連用地としての立地条件がよいが、都市計画法上の用途としては工場等の用地に利用できない状況です。また、県立酒田特別支援学校が隣接していることなどの課題があります。

つきましては、酒田港の今後の利用拡大を図る意味から下記事項について要望します。

#### 記

- (1) 旧酒田工業高校・旧酒田北高校跡地が港湾関連用地として利用可能な用途への変更の県への働きかけについて

## ◎都市基盤関係

### 10 第一種市街地再開発事業への支援について

酒田産業会館の改築は、酒田市中心市街地活性化基本計画に新産業会館整備事業として盛り込まれており、コンパクトシティ構想の一翼を担う賑わい創出の拠点、情報発信及び経済活動の拠点としての整備を考えています。新産業会館の整備事業は、単なる産業会館の建て替え事業ではなく、活性化拠点に求められている機能の一端を担うという視点での施設整備について、今年度は実施設計の発注をはじめ、平成33年春のオープンに向けて鋭意取り組んでいます。

酒田駅前地区の環境整備については、酒田コミュニケーションポート（仮称）を含めた実施計画が提示されるなど、駅前の賑わい創出に資する施設の整備が着々と進められています。酒田駅前地区の整備は市民の期待も大きく、今後の酒田のまちづくりの顔であります。駅前再開発事業については、計画の進捗状況を含めた市民への情報公開に努め、将来的に市の玄関口としてふさわしい開発に取り組んでいただきますようお願いいたします。

つきましては、市街地再開発事業に対して、次の事項について要望します。

#### 記

- (1) 酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業への予算確保について
- (2) 酒田駅前地区第一種市街地再開発事業の推進について

## ◎商工業・地域雇用関係

### 11 緊急雇用確保対策と地元就職の取り組みについて

人口減少による労働力不足と高校生の地元就職率が65%前後と低いこともあり、企業では地元の人を採用したいが、人材が集まらない状況が続き、生産量の抑制や新規受注ができないなど、廃業や人手不足倒産が避けられない状況にきています。

雇用関係では、関連機関・団体間が持っている雇用に関する情報が共有されていない場合があります。いつでも、どこの窓口でも一元化した同じ情報が地元就職を希望する生徒、学生に提供で

きるシステムが必要です。

地元で即戦力となるためには、地元就職を希望する者に対して、独自の資格・免許取得助成と各高等学校に対して、幅広い企業情報の提供が重要と考えます。

また、就職相談会とは別に、中学・高校生及び保護者を対象とした企業情報説明会、企業訪問などについて、関係機関、団体が連携した取り組みがあります。

今年度設立された酒田市産業振興まちづくりセンターは、地元企業、農林水産業、個人などのニーズとシーズをつなぎ、商品開発・販路開拓などにより、産業振興や農商工連携の一体的窓口になっています。

このようなことを踏まえ、早急な地元就職の向上と雇用確保の取り組みとして、下記事項について強く要望します。

#### 記

- (1) 雇用関連機関・団体間の情報の一元化と連携した取り組みについて
- (2) 酒田市産業振興まちづくりセンターと同様な雇用センター（仮称）の創設について
- (3) 地元就職希望者に対する資格・免許取得への助成について
- (4) 中学生・高校生及び保護者を対象とした企業説明会の実施について

## 1 2 地域の将来を担う人材の育成とU I Jターンなどの雇用対策について

地域の将来を担う人材育成は、小中学生の頃からものづくりや理系分野への興味・関心の醸成が必要であり、そのためには、市内小・中学生とその保護者を対象にした社会見学の一環とした市内製造業の工場見学や体験学習と考えます。

U I Jターンの対策としては、直接的には、U I Jターン者が酒田で円滑に活動ができるような新たな助成制度の創設です。庄内地域は、20代後半から30代前半の転入が転出より多い地域です。U I Jターンの推進に向けて、Uターン希望が多い30歳前後の世代に地元定住を促進するためには、酒田の生活環境の良さや具体的な住みやすさなどを効果的に情報発信することと考えます。

少子高齢化により生産年齢人口が減少するなど、今後、更なる労働力不足が懸念されます。多様な人材活用については、高齢者・女性の活躍はもちろんのこと、先端設備等の導入による生産性向上を図りながらも、中長期な取り組みとして、外国人労働者の活用を検討する必要があると考えます。

また、東北公益文科大学の学生アルバイトも、今や当地域の企業にとっては重要な労働力となっていますが、大学周辺と中心街との移動手段等がネックとなっています。

つきましては、下記事項について要望します。

#### 記

- (1) 地域の将来を担う人材の育成としての理系分野への興味・関心の醸成について
- (2) U I Jターンなどの推進について
  - ① U I Jターンの検討・希望者に対する効果的な情報提供と酒田で働きたくなるような助成制度の創設（普通自動車免許取得を含む。）

- ②女性のUターンを促進する施策の展開
- ③地元就職対策の支援強化
- ④求人・求職登録の一元化・共有化に向けた体制づくり
- ⑤外国人労働者の活用に向けた検討
- ⑥三十路式への支援

(3) 東北公益文科大学周辺と中心市街地との交通ネットワークの拡充について

### 1.3 市発注事業の平準化及び早期発注、工期の弾力的設定、地元優先発注について

市発注事業については、①適正価格による発注、②天候及び資材納入の遅れが明らかな場合等の工期の柔軟な対応、③債務負担や繰り越し制度等を活用した早期発注等による工事の平準化の推進と地元優先発注をお願いします。

あわせて、公共事業発注にあたっては、利益の確保が困難な工事も散見されることから、引き続き、適正な設計価格による発注にご理解をお願いします。

震災復興、東京オリンピックの需要、全国的な豪雨災害に加え北海道での地震など、復旧・復興事業では全国的に不足となっている資材もあり、納入時期の遅れが既に出ています。その状況の中、やむを得ない事情の場合は、工期延期等の柔軟な対応、債務負担や繰り越し制度などを活用した早期発注等によるさらなる工事の平準化の推進などに特段のご配慮をお願いします。

つきましては、酒田市のさらなる地域経済の発展を図るためにも、公共事業の多くの分野について、次の事項を要望します。

#### 記

(1) 市発注事業の平準化及び早期発注、工期の弾力的設定、地元優先発注について

### 1.4 空き家対策について

中心市街地をはじめ農村部では少子高齢化により空き家が増加し、台風や地震などの際の維持管理において社会問題化しています。壊れかけた空き家でも解体除去する施策には様々な問題があり、なかなか進まないのが実態です。

問題ある空き家についての法制度が整備されつつありますが、各種制度の整備にあわせて迅速に対応するためにも、市内にある空き家の実態調査と所有者(相続権者)の所在の把握に努めて頂くようお願いします。

少子化等で増加している空き家については、崩落等の危険が伴う社会問題であることから、次の事項について要望します。

#### 記

(1) 空き家(店舗)の実態調査と所有者(相続権者を含む。)の調査について

## 15 消費の喚起を促す商業振興対策事業の取り組みについて

廃業が新規開業を上回る現状において、街の店を守っていくためには、継続的な消費喚起を促す取り組みが求められています。共通商品券の発行は、消費者の購買意欲向上と店舗へ来店するきっかけづくりとして非常に有効な事業であり、継続的な発行が商店街の振興に繋がります。

また、世界的に、キャッシュレス化が進展している国での利用は40%～60%台に対して、我が国は18.4%にとどまっています。キャッシュレスはインバウンド、アウトバウンド、越境取引へとその範囲を拡大している状況にもあります。本市の商業活性化をサポートするためにも、キャッシュレス化のPRとQRコード支払いを含めた普及について、次の事項を要望します。

記

- (1) 共通商品券の発行に対する支援について
- (2) 商業振興対策としてのキャッシュレス化の推進について

## 16 新たな中小企業金融対策支援について

市内企業の多くは中小企業であり、その産業の下支えの中心は小規模事業者です。小規模事業者は、支払利子の発生などにより、事業継続のための借入対応に踏み切れない場合があります。

つきましては、中小企業金融対策支援について、次の事項を要望します。

記

- (1) 小規模事業者向けの制度融資に対する利子補給制度の創設について

## 17 木造住宅耐震改修支援事業等リフォーム関連事業の継続について

酒田市の「住宅リフォーム総合支援事業」及び「木造住宅耐震改修支援事業」は大変好評であり、経済波及効果も大きいことから、下記事項について要望します。

記

- (1) 木造住宅耐震改修支援事業等リフォーム関連事業の継続について

## 18 中心商店街等の防火地域における改装支援について

大火から40年以上が経過し、中心商店街の店舗は改装が必要な時期を迎えていますが、防火地域における改装には著しい費用負担増が生じています。建築資材の耐火性能向上により、資材利用の緩和措置も徐々に進んできていますが、未だに、利用制限が大きい現状にあります。当該地域で

は、後継者が戻ってきている店も増えており、世代交代の時期でもあります。事業承継の際に店舗を改装したいという思いはあっても、防火地域での改装は費用負担が重く、郊外へ移転し、現店舗が空き店舗となる場合があります。中心市街地の活性化のためにも、店舗継続維持が必要であり後継者対策の視点から、次の事項について要望します。

記

(1) 中心商店街等の防火地域における店舗改装支援について

## ◎観光関係

### 19 観光振興と観光戦略の推進について

平成29年に「酒田交流おもてなし市民会議」が設立されたことで、外航クルーズ船寄港の受入対応や各種イベントのおもてなしをはじめ、市民と連携した取り組みは、各方面から大変高く評価されています。今後は、酒田の観光振興をさらに戦略的に進めるため、市民会議と平行して、酒田市と観光関係団体等が定期的に情報・意見交換を行う体制が必要です。その定期情報交換を通して、情報共有、意思統一、役割分担がより明確化になると考えます。

「新潟県・庄内エリア デスティネーションキャンペーン」（以下、「DC」という。）が来年10～12月に行われます。JRと地元が一体となった取り組みを展開することで、観光客の増加、情報発信による経済効果が見込めるため、酒田市としてもDCへの強力な支援をお願いします。例えば、DC期間中に街中で食に関するイベントを多数行うなどして、駅から街中へ、街中から観光施設へと誘客する方法や観光施設や飲食店を回遊するなどの仕掛けづくりと鶴岡市と連携した庄内一体となった取組などがあります。

外航クルーズ船の寄港は乗船客による経済効果はもちろんですが、県内外から多くの見学者が訪れることで、飲食業をはじめ様々な業種への波及・相乗効果があります。つきましては、寄港する外航船への歓迎の意を表すとともに、県内の近郊市町村へ外航クルーズ船寄港を周知することで、より多くの県民が酒田に訪れることに繋がりますので、PRポスター等の作成・配布などの広報強化をお願いします。

酒田港における内・外航クルーズ船の受け入れやインバウンド対応はもちろんのこと、国内外の観光客に向けたサービスとして無料Wi-Fiの環境整備は必須な状況です。無料Wi-Fi（例えば、Free Wi-Fi yamagata）の仕組みが整備されつつありますが、中心市街地、公共施設、観光スポット・施設など広域的で途切れなく利用できるような面的整備をお願いします。そのためには、実態検証を含めた現状把握・調査や問題点の整理、商店街等との連携などを図りながら、平成32年度までの計画的な推進をお願いします。

市においても、庄内空港などを利用した国内外の観光誘客対策の強化が図られていますが、インバウンド観光の訪日外国人が増加する中、「おしん」に特化した観光施設等のニーズが高まっております。特に東南アジア、アフリカでも人気があり、現在においても「おしん」の知名度は高く、酒田に来る理由・動機付けに繋がっています。「おしん」のビジュアル化など、外国人観光客にとって観光名所となり得るようなコンテンツ化と施設整備が必要と考えます。具体的には、山居倉庫や旧燈屋、山王くらぶを活用した事業展開の検討をお願いします。

海洋性スポーツ普及・推進について、平田B&G海洋センターカヌー場にて取り組みがなされておりますが、カヤック体験を観光資源として捉え、気軽に観光客等が体験出来るような仕組みを構

築することで、更なる観光振興が図れます。中心市街地内には山居倉庫脇を流れる新井田川があります。新井田川で体験観光としてのカヤック利用があり、乗降場所等も含め、山居倉庫を拠点とするのが効果的と考えます。将来的には、山居倉庫整備事業の中に取り入れも含めて検討をお願いします。

宿泊業や飲食業を営む事業者が、市内で開催されるイベントやスポーツ大会などの情報を事前に知ることができれば、計画性を持ったおもてなしが可能になります。酒田市のHPにはイベント一覧表が設けられていますが、市が関連するイベントが中心で、いろいろな団体の大きなフォーラムなどの情報量が少ないこととその内容が分かりづらいつ感じます。また、インターネットを利用できない事業者も多くいます。直接顧客と接する現場の事業者に情報が提供される「酒田らしい」優しい仕組みづくりをお願いします。

本市には、北前文化に代表するような湊町、商人文化など観光客の誘客となる多くの資源が市内全域にあります。「酒田ラーメン」など、ぜひ食べて頂きたい食事などは、「酒田市ラーメン100店」等のブランドアップに向けた取り組みや「酒田に来たらぜひ立ち寄って欲しい!」、まちの自慢を地元の人が紹介する、「酒田市の文化遺産〇〇選」などの制度創設をお願いします。そのためには、市民がいつでも文化遺産などを自慢できる研修会の開催など、市民総参加型観光案内プロジェクトが必要と考えます。その他、日和山公園及びその周辺には多くの観光資源が集積していることから、点と点を結んで周遊コースを設定し、それを案内する観光案内サインの設置をお願いします。

本市には、観光産業として特徴ある工場や4種類のエネルギーミックスによる発電施設があります。交流人口の拡大を図る視点からも産業を活かした産業観光コースの充実と受入体制が重要となります。

「ぶら探酒田」は、無料で参加できるまち歩きで、当会議所が中心となり平成27年度から取り組み、毎回100名を超える方々が参加しています。継続には受入窓口の整備、観光ガイドの養成など解決すべき課題は多くありますが、将来的には持続可能な運営体制を構築することが重要です。

つきましては、観光振興と観光戦略の推進について、次の事項について要望します。

#### 記

- (1) 観光推進のための観光関係団体との新たな体制づくりについて
- (2) 新潟・庄内エリア デスティネーションキャンペーンへの取り組み強化について
- (3) 外航クルーズ船寄港に係るPRの強化について
- (4) 酒田Wi-Fiタウン化に向けた現状把握、市による計画的整備と民間事業者への支援について
- (5) 酒田への国内外の観光誘客対策について
- (6) 山居倉庫「酒田夢の倶楽」の物販売り場面積の拡充について
- (7) 「おしん」の有効活用と計画的施設整備について
- (8) 新井田川における体験型観光としてのカヤック施設の整備について
- (9) イベントやスポーツ大会の関係事業者への情報提供について
- (10) 酒田のラーメンなどのブランドアップの推進について
- (11) 酒田の「文化遺産〇〇百選」などの制度創設と市民参加型プロジェクトの取り組みについて
- (12) 日和山周辺の周遊コースの設定と観光案内サインの充実について
- (13) 産業観光への支援について

(14) 「ぶら探酒田」の持続的運営体制の早期構築について

## 2 0 山居倉庫周辺等整備事業の推進について

酒田市での「道の駅」については、旧商業高校の跡地や消防署跡地も含めた山居倉庫周辺等整備の計画として、従来の形態にとらわれない「まちの駅」の設置を検討していると認識しています。

今後、「まちの駅」の設置を含め、山居倉庫周辺等整備事業を推進するにあたり、産業界の意見も取り入れ、合意形成された事業となるよう、調査・企画段階から産業界が参画できるような仕組みづくりが必要と考えます。

酒田市にとって貴重な財産である旧県立酒田商業高等学校跡地については、ジオパークランド(見どころを動画で紹介・インスタ映えするセット)、ラーメンビレッジ、酒パビリオン(全国のお酒と市内のお酒が飲めるブース 日本一の品揃え)、ジオ食堂(ジオパーク内で採れた農林水産物を使った自然の恵みレストラン)などの複合観光施設が考えられます。その結果として、山居倉庫とのシナジー効果が期待できます。

山居倉庫周辺等整備事業については、次の事項について要望します。

### 記

- (1) まちの駅の検討や山居倉庫周辺等整備事業については、調査・企画段階からの産業界の参画できる仕組みづくりについて
- (2) 旧酒田商業高校の跡地利活用としての複合観光施設による有効活用について

## 2 1 将来に向けた道の駅の調査・研究について

道の駅米沢は、4月にオープンし、年間目標の85.3万人を9月8日に突破、10月上旬には100万人に達する見込であり、米沢周辺への経済効果と米沢の新たな名所となっています。

酒田市においては、旧商業高校跡地と山居倉庫周辺を一体とした歴史市街地構想整備を進めていますが、歴史市街地構想後の将来に向けて、本市を通過する人を含めた産業振興として、次の事項について検討をお願いします。

### 記

- (1) ロードサイド型の道の駅の経済効果を含む情報収集
- (2) 将来に向けた調査・研究について

## 2 2 エネルギーミックスを活かしたビジターセンターの設置について

酒田港周辺は、①火力発電に加え再生可能エネルギーである②風力、③太陽光、④バイオマスの施設建設が相次ぎ、一大発電拠点として国内でも珍しい地域となっています。観光産業としての研修視察やエネルギー教育の見学ツアーなどを誘致し、交流人口を増やし、地域活性化につなげるためにも、次の事項について要望します。

## 記

- (1) エネルギーミックスを活かしたビジターセンターの設置に向けた国、県等への働きかけについて

## ◎水産関係

### 2 3 水産加工関連の誘致及び加工品開発支援について

新潟県・庄内エリア デスティネーションキャンペーンの本番を来年に控え、食の都庄内、おいしい庄内をPRしながら、本市における交流人口の拡大を図る必要があります。

全国的な健康志向ブームや地元ならではの食材、メニューが注目され、特に、DHAとEPAや良質のタンパク質が多く含まれる魚介類やミネラルを多く含む海藻類へのニーズの高まりがあります。

本市には離島飛島があり、少量多品種ではあるが豊富な水産資源に恵まれています。今後の漁業振興を考えた場合には、漁獲したものを一定量で出荷するとか、大量に収穫した場合に安定的に供給することが求められます。そのためには、水産業として一番必要な施設は、港湾の近くに、消費者ニーズにあった冷凍施設と一時加工施設が必要となります。

陸上養殖は、水産資源の減少により関心が高まり、ビジネスとして成立しつつあります。冬場の安定出荷と漁業者の所得向上としても陸上養殖を検討すべき時期と考えます。飛島近海には本マグロの主要な産卵場と言われるほか、各種の有望な魚介類の宝庫です。

つきましては、酒田市漁業振興と観光振興を図る意味から、下記事項について要望します。

## 記

- (1) 新たな商品開発及び料理レシピの開発への支援について
- (2) 酒田港周辺への冷凍施設及び一次加工場設置の検討について
- (3) 造る漁業の推進と海洋研究機関の誘致について

## ◎健康福祉関係

### 2 4 子育て支援について

酒田市におかれては、ふるさと休日の導入を図り、親子で一緒に地域の祭事への参加を通じて地元に対する愛着を持つ取り組みが行われています。当所においても、ふるさと休日の趣旨に賛同し、4月～5月にかけての酒田まつりの開催時には、企業の社員が休暇を取得しやすいように啓発・広報事業に取り組んでいます。

平成29年度からは、妊娠・出産・子育て包括支援として、切れ目なく支援する「酒田版ネウボラ」が始まるなど先進的な対策を講じられています。

今後の女性活躍社会の実現に向けて、子育ては、多くの労力を必要とし、世代間を超え、事業所を巻き込み、包括的に育てる仕組みをつくるのが大切です。

つきましては、子供を産み育てやすい社会環境について、次の事項を要望します。

## 記

(1) 包括的な子育て支援施策の継続的展開について

- ①企業型保育所の設置促進
- ②保育士確保に向けた取り組み強化
- ③育児休暇後の復帰に伴う支援体制の構築

## 25 食育などの見える化と支援体制の整備について

子供は、本市の将来を担う宝であります。子供たちの実態が、情報量として、情報数として市民に中々伝わらない実態と考えます。例えば、孤食といっても、親の勤務時間とか、単に家族とは別に一人で食べているとかが分からない状況ですが、マスコミなどからは、孤食の子どもが多くなっているとの報道があります。教育面では、家族の所得差が子供の教育格差となっていて、高い教育を得られない子どももいるともあります。

例えば、「寺子屋塾」のような組織を立ち上げ、「食」の大切さと一緒に「知識」も養える教育の「場」を検討する意味から、市民と企業に対して食と教育力の実態提供が必要と考えます。

つきましては、子育てに優しい「まち」にはU I Jターンも進むことから、下記事項について要望します。

## 記

(1) 子供たちの「食」、「教育力」における実態調査とその対策について

(2) 酒田ネウボラとしての「住まい」と「食」をセットとした移住の推進について

## ◎環境関係

### 26 送電網の整備拡充について

当市は、木質系バイオマス発電所の建設や太陽光発電、風力発電など再生可能エネルギーの一大基地としての役割が高まっています。酒田港は県内の発電需要量の大部分をまかなえる地域であり、山形県が再生可能エネルギー開発を重点課題として取り組んでいることから、当地域の電力が安定的に送電できるためにも、下記事項について要望します。

## 記

(1) 再生可能エネルギーの一大基地化に伴う電力の安定供給のため、送電網の整備促進に向けた支援体制の構築について

## ◎教育関係

### 27 高校再編計画（中高一貫校を含む。）への対応について

山形県立酒田光陵高等学校工業科の減科の進め方からみると、高校などの再編計画が地元へ情報提供された時点では、再編計画が既に決定されており、従って説明・報告となっているため、地元としての効果的な対策ができない状況にあります。市当局においては、県教育庁の学校再編計画の情報収集に努め、速やかに関係各機関、団体への情報提供に努めて頂き、地域の意向に沿わない計画や地元産業の現状と合わない場合は、計画見直しなどの対応にご配慮をお願いします。

山形県立酒田光陵高等学校工業科の1科減については、ものづくり力の低下、企業における人材確保等々の観点から、当地域の経済に与える影響は甚大であります。

つきましては、下記事項について要望します。

#### 記

- (1) 高校再編計画（中高一貫校を含む。）に係る早期情報収集とその積極的対応について
- (2) 県立酒田光陵高等学校工業科4科維持を強く山形県へ働きかけることについて

### 28 学習環境向上のための環境整備の推進について

近年の異常気象により、全国的に小学校・中学校において、熱中症に罹る児童生徒が増えています。本市の将来を担う子供たちの学習環境の向上を図るためには、空調設備設置の推進が喫緊の対策であります。酒田市においては、国や県などによる補助事業に速やかに対応できるよう現状の実態把握に努めていただくとともに、下記事項を要望します。

#### 記

- (1) 学習環境向上のための環境整備の推進について